

製品名: MLL2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13960**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	609kDa

抗原情報

遺伝子名	MLL2
別名	ALR KMT2D MLL4
遺伝子 ID	8085.0
SwissProt ID	O14686
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 1430-1510

背景

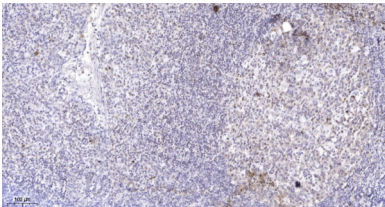
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ヒストン H3 の Lys-4 をメチル化するヒストンメチルトランスフェラーゼである。コードされるタンパク質は、ASCOM と呼ばれる大きなタンパク質複合体の一部であり、 β -グロビン遺伝子およびエストロゲン受容

体遺伝子の転写調節因子であることが示されている。この遺伝子の変異は、歌舞伎症候群の原因となることが示されている。[RefSeq 提供、2010年10月],触媒活性: S-アデノシル-L-メチオニン + ヒストン L-リジン = S-アデノシル-L-ホモシステイン + ヒストン N(6)-メチル-L-リジン。 ,ドメイン: LXXLL モチーフ 5 および 5 は、ESR1 核内受容体との結合に必須である。 ,機能: ヒストンメチルトランスフェラーゼ。ヒストン H3 の Lys-4 をメチル化する。H3 の Lys-4 メチル化は、エピジェネティックな転写活性化のための特定のタグを表す。 NFE2 によってリクルートされ、β グロビン遺伝子座の転写制御において中心的な役割を果たす。 ESR1 によってリクルートされ、エストロゲン受容体のコアクチベーターとして作用し、転写を活性化する。 ,その他: この遺伝子は、がんに関連する重複および転座に関与する染色体領域にマッピングされている。 ,PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化される。 ,類似性: ヒストンリジンメチルトランスフェラーゼファミリーに属する。 TRX/MLL サブファミリー。 ,類似性: 1つのポスト SET ドメインを含む。 ,類似性: 1つの RING 型ジンクフィンガーを含む。 ,類似性: 1つの SET ドメインを含む。 ,類似性: 5つの PHD 型ジンクフィンガーを含む。 ,サブユニット: MLL2/MLL3 複合体 (ASCOM 複合体とも呼ばれる) の構成要素であり、少なくとも MLL2、MLL3、ASH2L、RBBP5、DPY30、NCOA6、WDR5、MEN1、KDM6A、および PAXIP1/PTIP から構成される。 NFE2 と相互作用する。 ESR1 と相互作用し、相互作用は直接的である。 ,組織特異性: 肝臓を除く、様々な造血細胞を含むほとんどの成体組織で発現する。 ,

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。